

筑豊炭坑の搾取地獄や非人道な畜生道的經營の全般的カラクリの曝露はこの記録には述べないことにする、鑛山監督局や保安課や又は警保局や社會局などを直接監督の責に任ぜられて居る官廳の方々が少し眞剣に他の記録をお讀みになれば私共のそれ等の問題に關する記述は無駄な冗言に過ぎないからであるだが監獄部屋と云つて恐れられ豚小屋と罵つて蔑まれてゐる鑛山労働者の納屋だけは監督官廳の方々に頼かむりでもして實地視察を一度だけ行って良から行つて見ることをお勵めする、そうして坑夫は採炭の容易な炭脈に行き當つた幸運な者でさへ一日十六、七時間も坑底に働いてすら一ヶ月の賃金平均がどうしも二十圓に達しない惨めな事實丈は是非知つて載き度い、私共は極端な事例を好んで擧げるのではないが硬い地盤にても行き當つた不幸な坑夫は一日十時間の採炭量が二錢の勞銀にしかならない事もあるし筑豊炭坑では一日

十數時間の採炭賃銀が十錢二十錢であることは少しも稀らしいことではない若しも筑豊全炭山の坑夫が悉く幸福者であるとしても月收二十圓以下では女子大學家政科出身の奥様にだつて一家の生計を立てることは出来なだらう、

だから坑夫の飯場（炭坑直營か又は炭坑と結托した者の經營する坑夫の食事配給所としての惡辣な他々の坑夫搾取機關）の借金はかさむばかりでそこに更に惡逆な炭坑の畜生道的搾取が再生産され再々生産される。

私共は記録的簡易化の爲に以下事實を項目的に列記する

坑内瓦斯爆發の非常災害犠牲坑夫にロクロクの治療も行なわず抛り出し一ヶ月後大學病院の病澄をつきつけられて澁々手術をして未だ入院加療中

坑名 吉隈炭坑